

首座法座とは？

インドでは春から夏にかけての約三か月間、毎日雨が降り続く「雨季」となります。雨季の間は、外へ出て修行することができないので、お釈迦さまやお弟子さま方は精舎（お寺）に集まって修行することとなりました。このようにして、大勢の修行僧が、一か所に集まることを「結集」といい、修行僧が結集してお釈迦さまの定められた制度や制約に従って生活するので「結集」といいます。

結集を修行するにあたり、修行僧の先頭に立っておつとめする、修行僧の第一座を「首座」あるいは「長老」といいます。首座は、大勢の修行僧の中から力量の最も優れた者が選ばれます。首座法座は、首座が住職に代わって禅の修行やさとりについての問答を交わす儀式のことで、「法戦式」とも呼ばれます。これは、お釈迦さまが靈鷲山において、お弟子さま方の中の長老である摩訶迦葉尊者に御自分の席をお譲りになり、御自分に代わって多くの修行僧たちに説法することをお許しになったという故事によるものです。

今日では、首座法座は儀式として形式化されていて、一人前の僧侶となるために必ず通らなければならぬ関門となっています。僧侶にとつての成人式といえるかもしれません。

大本山永平寺・大本山總持寺の本山僧堂や、各地の専門僧堂と呼ばれる修行道場では、毎年二回の首座法座が行われていますが、一般寺院ではめったに行われることはなく、定光寺では、平成十九年五月の現住職の晋山式の折に住職の弟、乙川文宗の首座法座がとめられて以来、十五年ぶりとなります。

今回の首座法座では、住職の長男、乙川文隆が首座をおつとめします。



平成 19 年 5 月
首座（写真左）乙川文宗（現住職の弟）



昭和 63 年 5 月
首座（写真右）乙川文英（現住職）



定光寺 LINE 公式アカウントです。
お寺への連絡に御利用ください。